面積は215万平方㍍に過ぎず、特に1960年代後半～80年代前半はほとんど木造学校施設が建設されなかった。これは国の施策も影響しており、55年の閣議決定「木材資源利用合理化方策」で国、地方公共団体が率先して建築物の非木造化を推進すると定めた結果であり、元々木造校舎であったものがRC造など非木造で建て替えられた。

しかし、90年代以降は大きく変化してきた。85年に文部省が学校施設への木材利用促進を全国に通知したことが契機となり、90年代以降はそれ以前の3～4倍の木造床面積となっている。また、公立学校施設の木材利用状況（同省集計、10年度）によると、木材使用量は8万立方㍍で、公共建築物全体の木材使用量推定60万立方㍍のかなりの部分を占める。

同省によると、10年度の公立学校施設整備棟数1271のうち、非木造でも797棟で内装木質化が行われ、232棟は木造で建設されており、木造、木質化比率は81%にのぼる。集計対象ではないが、学童いす、机といったスクールセットも木質化されるケースが増えている。

公立学校施設整備では国等の補助体制も整備されており、エコスクール改修や地域産木材を使用した場合には補助率の加算も規定されている。既に学校施設の耐震化改修が進められているが、特に木造学校施設の耐震化への取り組みは遅れており、今後は耐震改修に絡めた木造化、木質化も増えてくるものと予想される。（ム）

木質系瓦礫をボイラー燃料に利用

分別の手や輸送手段が不足

日本製紙石巻工場

ネルギー利用する予定だ。

同社では、グループ会社の日本製紙木材（同、岩渕正廣社長）に木質系瓦礫の受け入れや処理などを行う体制を石巻市雲雀野町で築いており、移動式破砕機（3台）で月間7000～8000㌧の木質系瓦礫を処理する能力を持つ。

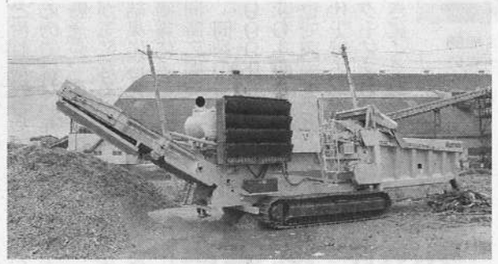
実際の作業としては、津波によって潮を被った木質系瓦礫を程度によって仕分けして、破砕機にかけている。「処理する人間や仕組みができたので、地元企業として可能なことをやっていきたい」（同社）という。

しかし、実際の木質系瓦礫の供給は、10月5000㌧、11月5000㌧と当初計画していた月間約1万㌧の半分しか供給されていないのが実情だ。

この背景として、特に石巻地区では、震災に関連した家屋解体等に人を充てたため、木質系瓦礫を分別・処理する人員や輸送手段が不足していることを挙げている。

さらに、「震災による木質瓦礫の発生数量が、当初見込んでいたよりも少ないのではないか」という見方も出ているようだ。

同社では、この不足している半分のバイオマスボイラー用燃料分を従来の業者から供給を受けている。（つづく）



粉砕機で木質瓦礫を粉砕（日本製紙石巻工場）

エコ民家に大壁仕様を開発

営業支援策も発表

プレ・プラ

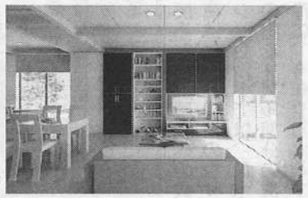
「ECO民家」を展開するプレ・プラ（横浜市、佐々木秋雄社長）は2日、東京都内で「第7回全国オーナー会議」を開催した。「木でつくる、通気する家づくりを進めるなかで、従来の真壁仕様だけでなく大壁仕様も開発した。また、営業顧問制度を設け顧客管理や不動産業者との連携などで、受注力を向上させていきたい」と佐々木社長は方針を示した。

同社ではWOOD500という工務店グループを主催しており、約220社が参加し、月間10件規模の物件が動いている。

地域の工務店による「木材を呼吸させる家づくり」では、従来の真壁仕様に加えて卵から生まれた高性能調湿内装紙「エッグウォール」を使用し、内断熱（フェノバボード）や外壁にはサイディング仕様に加えて東邦レオの塗り壁などを採用した。プレカットはポラテックを通じて、金物工法（HSS構法）、太陽光発電はソーラーフロンティアの責任施工を全国対応で提供していくことを発表した。

「ECO民家アイテムを月刊誌で毎月掲載し、スケールメリットを生かして価格を下げて行くようにしたい。掲載部材も売れ筋のものに刷新していく」と佐々木社長は話している。

また、ハウスメーカーなどで実績を上げてきた人を営業顧問として、全国で対応できる体制を整える。管理顧客のリスト化などで安定した受注を上げられるようにするとともに、不動産会社などへの紹介の仕組みも構築し、土地なし客への対応や紹介を増やしていくなどの支援策を導入することなどを紹介した。



新たに開発された大壁仕様

カナダのドア会社買収

三和HD

三和ホールディングス（東京都、高山俊隆社長）は、同社の100%子会社、オーバーヘッド・ドア・コーポレーション（＝ODC、米国テキサス州ダラス）がカナダのクリエイティブ・ドア・サービス（＝CDS、アルバータ州エドモントン）の全株式を取得することを11月29日の取締役会で決定した。今回の買収にあたりODCの全額出資子会社をカナダに設立することも決めた。

三和HDでは、スチール建材の世界市場での№1となるべく日本、米国、欧州、アジア（中国）の4地域で事業を展開している。ODCは長期戦略の1つとして、事業領域の拡大を目指し、施工やメンテナンスなどのサービス事業の強化に取り組んでおり、今年1月には自動ドア関係のサービス会社の事業を取得している。今回新たにカナダ西部に拠点を置くシャッター、ドアの流通大手のCDSの全株式を取得し、北米市場でガレージドアと商業用ドアのサービス分野の一層の強化を図ることにした。

CDSは、1969年設立の会社で11年3月期の売上高は6193万1000カナダ㌦で純利益407万7000カナダ㌦を上げている。

スティムソンの工場を買収

ボイジーカスケード

米国の木材製品大手であるボイジーカスケード（アイダホ州ボイジー）はこのほど、スティムソンランバー（オレゴン州ポートランド）のアーデン製材工場（ワシントン州コルヴィル）を買収すると発表した。

買収額等は未公表。12月末までに買収を完了させる。ボイジーカスケードは同工場を自社のケトルフォールズ製材工場とともに、ボイジーカスケード内陸事業部門に組み入れる。

9日までペレットボイラーツアー・セミナー

京都ペレット町家ヒノコ

京都ペレット町家ヒノコ（京都市）は、きょう8日午前9時30分からペレットボイラーツアー1、9日午後1時30分から同導入セミナーを開く。

ツアーは森の力京都ペレット製造工場、京北病院ペレットボイラー、鷹峯小学校ペレット焚き吸収式冷温水機見学、京都ペレット町家ヒノコを貸し切りバスで見学する。

9日は京都府中小企業会館で京都市林業振興課の三井隆志氏が「京都市の環境、森林政策と木質ペレット燃料」、京都ペレット町家ヒノコの松田直子氏が「京都周辺におけるペレットボイラー導入事例」、ボイラーメーカーによる製品紹介（トモエテクノ、矢崎総業、日本サーモエナー、丹後木質燃料）、森のエネルギー研究所の菅野明芳氏が「成功事例と導入のポイント」について話す。

詳細は同社（電話075・241・6038）まで。

10、11日に京都環境フェスティバル

京都府ほか

京都府、京都府地球温暖化防止活動推進センターなどは10、11の両日、京都府総合見本市会館で「京都環境フェスティバル2011」を開催する。

〝KYOからはじめる省エネ・節電と温暖化対策〟と題し、府内の林業、木材関係をはじめ、多数の企業、団体、学校などが出展する。

問い合わせは京都府文化環境部環境政策課（電話075・414・4731）まで。

ケヤキ大径材が大量出材

テンポ良く値も上がる

吾野原木センター

広葉樹置き場3カ所すべてが埋まるほど多くの大径木が集まった

吾野原木センター（埼玉県飯能市、鴨下文明社長）はこのほど、第48回埼玉県優良木材展示会の広葉樹市を開催した。

市には同センターの広葉樹置き場3カ所すべてが埋まるほど多くの大径木が集まり、30人以上の買い方が参加、勢いよくせりが行われた。

特にケヤキの入荷が多く、前日には石川県の業者が来て500万～600万円相当のものを購入していったという。

せりは、テンポ良く、声もよく出ただけに値も上がり、元落ちもほとんどなかった。20万円以上の落札も多かった。

ケヤキ3～5㍍×40×50㌢で1万～3万円（なかには10万円以上も）、6㍍×50㌢で5万円（20万円の材も）、6～7㍍×60㌢で10～15万円、そして7～8㍍×50㌢で15万円以上。またカシは4㍍×40㌢で4000円、ナラは4㍍×40㌢で7000円。

者は全国各地から集まっていただいたが、西日本からの来場者に活気が感じられた。平均単価の下落は、慢性的な良材原木の不足から並材製品の出品が多かったため」と話している。

農林水産祭での総理大臣賞受賞を県林政部長に報告

伊藤林産

伊藤林産（岐阜県中津川市）の伊藤正弘社長は2日、岐阜県庁の林政部長を訪問し、11月23日に東京都渋谷区の明治神宮で開かれた第50回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞したことを報告した。

同賞は10年8月～11年7月の農林水産祭参加行事において、農林水産大臣賞を受賞した453点のなかから決定された。受賞理由では、同社が1971年にJAS認定工場となり、JAS製品の普及推進に取り組んできたほか、東濃桧のブランド化推進に先導的な役割を果たし、高い製材技術や乾燥技術により精度の高い優れた製材品を生産してきたことが評価された。

受賞を報告した伊藤社長（左）

伊藤社長は「東濃桧のブランドは先輩方が築いてきたおかげ。時代の変化によって並材中心となったが、これからもJAS認定工場としてクレームのない製品の供給を行っていきたい」と話した。

研修旅行で二宮木材見学

東京中央木材市場買方組合

東京中央木材市場買方組合（青木嘉勝理事長）は、このほど実施した栃木方面の研修旅行で、国産材製材大手の二宮木材（那須塩原市、二ノ宮英寿社長）の本社工場を見学した。中央市場の所属問屋である京南木材（中川雅之社長）の仕入れ先で、同社では杉のムク内装材「やみぞ美人」を取り扱っている。

記念

工場を案内した二ノ宮泰爾専務は「最近は特に羽目板、フローリング、平角の生産に力を入れており、平角は機械等級区分構造用製材のJAS認定を取得破風板などの羽柄材と平角、柱角、内装加工板等を製材している。

◉市売日は
毎週 木曜日
TEL 03(3521)7121(代)
●祭日市日の場合は翌日開市

◉東木越谷センター
常時在庫豊富
埼玉県越谷市大間野町1-130
TEL 048(989)0171(代)
FAX 048(989)0174

東京木材市場株式会社
本社 東京都江東区新木場2-1-8
電話 03(3521)7111(代)
FAX 03(3521)7115
URL:http://www.tomoku-ichiba.co.jp

若い経営陣に次任せる

る。これを根本的に解決しなければならな